

有効な支援情報



- 行動理論を基に、お子さんの行動を理解し、良さを伸ばす支援情報
- 私たちの行動は、どんな時に、どんな行動して、どんな結果が生じるかにより変わる
- お子さんの今の姿はこれまでの学習の成果、今からの学習により良さを発揮できる

就学前の有効な支援情報を明らかにする



- 引き継ぎシート
 - お子さんの得意・好きなこと、成長していること、こうすると良さを発揮できる！
- お子さんの行動の理解
 - プレイルームで走り回る
 - これまで友達に関心がなかった→友達への関心ができた
 - プレイルームで、走り回ると、周囲がかかわる
- お子さんの育ちを応援
 - 友達にシールを配る役割をつくる、周囲がかかわる

引き継ぎシート

当日提示

参考
宇野紀子・坂本博(2016)幼稚園児における行動課題と子ども発達専門家との関係に関する調査研究。
井上雅章(2012)施設入居者の評価と支援手段に関する研究。厚労省科学研究費補助金助成事業「平成23年度総合的科学研究費助成事業」。

就学前の支援情報を入学時支援に活用する



- 入学当初のお子さんの困りが生じやすい場面で応援を実施
 - 行事場面、初めてのことをする時に、嫌がる
- お子さんの行動の理解と応援
 - 慣れていることはできる→見通しがもてない、うまくしたい
 - 嫌がると、それを避けることができる
 - 入学式は、事前にどんな場所で何をするか個別に体験
 - はじめてのこと、だいじょうぶだったね！

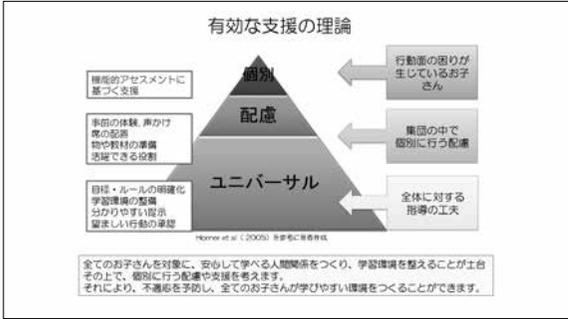
小学校に応じた有効な支援情報を明らかにする



- リーダー研修：支援の中心となる特別支援教育コーディネーター
 - お子さんの育ちと今の姿の理解、応援の考え方と方法を学ぶ
 - 担任の先生と行動支援計画を作成する
 - 支援を見届け、お子さんの成長を見届ける
 - 保護者と成長を共有する
 - 次年度に引き継ぐ

お子さんの姿から

- 良好
 - 1学期の支援のたまもです。どのような支援が有効なのかを明確にし、2学期も継続したり、次年度に引き継いでください。
- 気になる・困った行動がみられる
 - 小学校の活動やかかわりの中で、新たな困りが生じています。アセスメントをもとに、困りを理解し、支援を考えましょう。
- して欲しいことをしない
 - 授業中に、先生の話を聞かない
 - 話の内容がわからない
 - わかって、うまくできない
 - わかる、できる状況をつくる
- して欲しくないことをする
 - 授業中に、関係のないおしゃべりをする
 - おしゃべりをする、わからない授業を避けられる
 - 先生が注意することで注目が得られる
 - よい行動で注目される場面をつくる、代わりに行動で注目が得られる



機能的アセスメント

- 機能的アセスメントは行動理論を基に、お子さんの行動を理解する行動観察方法
- 困った行動として現れているお子さんの困り理解します
- ABCからお子さんの行動を理解し、良さを伸ばす支援を考えます

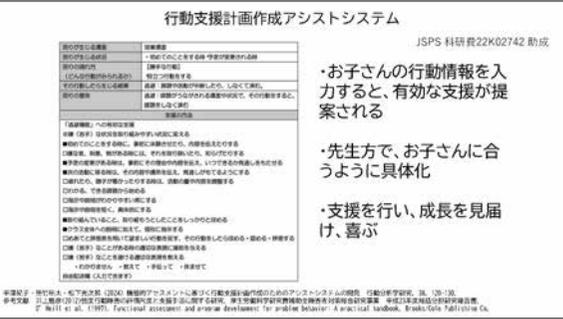
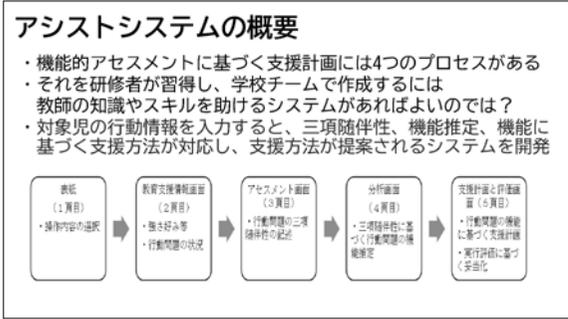
困った行動として現れる行動(機能)	良さを伸ばす応援
注意獲得	注目されない状況で、その行動をすることで、注目やわかり(注意も喜び)が得られる → 望ましい行動に注目しやすい状況をつくる → 望ましい行動にかかわる
逃避の獲得	嫌(苦手)なことがある状況で、その行動をすることでそれから逃れられる → 嫌(苦手)な状況を取り除いたり状況に変える → 取り除くのを求める
物や活動の獲得	欲しい物やしたいことがある状況で、その行動をすることでそれが得られる → 望ましい行動で要求し、欲しい状況をつくる → 望ましい行動による要求に反応
感覚刺激の獲得	することがない状況で、その行動をすることで感覚刺激が得られる → するところをつくる → 感覚刺激が得られる代わりの行動を教える

参考: 戸 尾川 et al. (1997). Functional assessment and program development for problem behavior: A practical handbook. Brooks/Gale Publishing Co.



アシストシステム

- 発達障害児者の行動問題に対しては、機能的アセスメントに基づく支援が有効 (Jeong & Copeland, 2020)
- 米国では、障害のある個人教育法 (IDEA) に位置づけられ、教師が個別教育計画 (IEP) に機能的アセスメントを活用するための研究が進められている
- 行動分析学の専門家ではない教師が機能的アセスメントに基づく支援計画を作成するために
 - 教師を対象とした基本研修: 1回1時間・4週の研修プログラム
 - 研修を受けた教師が学校チームで作成できる (行動支援経験者)
- 短期間の研修で、研修を受けた教師が研修を受けていない学校チームで作成できるようにしたい



リーダー研修

- ・特別支援教育コーディネーター 10名
- ・1回3時間の講義と演習（行動理論、システム活用方法、研修非参加者との作成方法）
 - ・研修者の機能に基づく支援方法に関する知識が向上（BSPKA得点）
 - ・研修者が研修を受けていない担任と一定の質を満たす支援計画を作成できた

経緯	先行事業	行動	結果事象	機能	研修で作成	9月支援方法	12月支援方法
1	AC	課題が促される時	机、床にねそべる	課題をしなくて済む	遠隔	・わかる、できる課題から開始 ・クラス全体の説明と個別指示(対象児を文字で伝える) ・取組をほめる	・わかる、できる課題から開始(対象児が漢字クイズを出す) ・わかる、できる課題から開始(対象児が漢字クイズを出す)
2	CC	初めてのことをする時	反折する	課題をしなくて済む	遠隔	・初めてのことをする際に、事前に体験内容を伝えたりする ●事前計画に個別表で取組をほめる	●初めてのことをする際に、事前に体験内容を伝えたりする(前分で個別表を確認) 取組をほめる

経験：特別支援教育コーディネーターと担任 特功の経験、教職、個別的教育支援計画、特別支援学校教諭免許
●専門家による助言 経験によらず支援計画を作成できたが、具体化や妥当化には経験の影響がみられる

システムの使用評価

- ・小学校10校の特別支援教育コーディネーターと担任のペア10組
- ・1回2時間程の講義と演習（行動理論、システム活用方法）

表1 アシストシステムの試用評価(N=10)

項目	評価
①行動理論や機能的アセスメントの理解を助けた	100
②対象児の行動問題の状況が明確になった	80
③対象児の支援を考える手がかりになった	100
④作成した支援計画の実行により対象児が変容した	80
⑤アシストシステムへの記録入力負担がない	70
⑥入力した記録を用いて支援方法を検討した	50
⑦アシストシステムを使用した行動支援計画の作成は負担がない	100
⑧アシストシステムは個別の教育支援計画に役立つ	100

表中の数値は回答数に対する「当てはまる」「少し当てはまる」の割合%

平澤・菅竹・松下(2024)

小学校における支援状況

- ・2022年度から2024年度 N=67 個別的な相談支援は岐阜市総合支援センターが対応

当日提示

特別な支援を要するお子さんの発達や学びの連続性を保障するシステム

- ・お子さんの育ちを理解し、良さを発揮するための支援情報が重要
- ・その支援情報を就学前から小学校に継続するための仕組みが必要
- ・教師の経験等によらない研修と質を確保するICT活用が有効
- ・データ連携とフィードバックは課題

参考情報

- ・ 伊藤, Y. (2019). 子どもの発達支援の重要性: Evidence of an assistive system. *Journal of Special Education*, 53(1), 1-10.
- ・ 菅竹, S. (2022). 個別化された支援計画の作成と実践: 実践的アプローチ. *Journal of Special Education*, 56(1), 1-10.
- ・ 菅竹, S., & 伊藤, Y. (2023). The effectiveness of an assistive system for children with autism spectrum disorder: A case study. *Journal of Special Education*, 57(1), 1-10.
- ・ 菅竹, S., & 伊藤, Y. (2024). The effectiveness of an assistive system for children with autism spectrum disorder: A case study. *Journal of Special Education*, 58(1), 1-10.
- ・ 菅竹, S., & 伊藤, Y. (2024). The effectiveness of an assistive system for children with autism spectrum disorder: A case study. *Journal of Special Education*, 58(1), 1-10.
- ・ 菅竹, S., & 伊藤, Y. (2024). The effectiveness of an assistive system for children with autism spectrum disorder: A case study. *Journal of Special Education*, 58(1), 1-10.
- ・ 菅竹, S., & 伊藤, Y. (2024). The effectiveness of an assistive system for children with autism spectrum disorder: A case study. *Journal of Special Education*, 58(1), 1-10.

